

「主を慕いあえぐ心」

1. 中心を見る神様

1) 人の中心を見る神様(サム上16:7)

「しかし主はサムエルに仰せられた。「彼の容貌や、背の高さを見てはならない。わたしは彼を退けている。人が見るようには見ないからだ。人はうわべを見るが、主は心を見る。」」

2) 私の中心は何を求めているのか

「しかし、イエスは振り向いて、ペテロに言わされた。「下がれ。サタン。あなたはわたしの邪魔をするものだ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。」」

3) 主が願われる信仰：中心から主を慕いあえぐ(詩篇 42篇1～2節)

「鹿が谷川の流れを慕いあえぐように、神よ。私のたましいはあなたを慕いあえぎます。私のたましいは、神を、生ける神を求めて渴いています。いつ、私は行って、神の御前に出ましょか。」

(1)神からの唯一の救いの道：ただ主・エイス・キリスト(使徒4:12)

(2)人に求められること：中心(エレミヤ29:13)

2. ただキリストの意味一真の集中

1) 私の終わり、神の始まり(ガラ2:20；マタ16:24)

「私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が肉にあって生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。」

「それから、イエスは弟子たちに言わされた。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。」

死んだ後のことの心配したり計画したりする者は、死が何かを知らないか、死ぬ気がない者である。

2) 信仰の創始者であり完成者(ピリ1:6；ヘブ12:2)

「信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。イエスは、ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをものともせずに十字架を忍び、神の御座の右に着座

されました。」

3) 御言葉と聖靈の導きに生きる(ヨハ6:63)

「いのちを与えるのは御靈です。肉は何の益ももたらしません。わたしがあなたがたに話したことばは、靈であり、またいのちです。」

3. 主に届く祈りが積まれる時間(イザ58:1~12)

1) 願いの祈り(イザ58:2~5)

「2 しかし、彼らは日ごとにわたしを求め、わたしの道を知ることを望んでいる。義を行い、神の定めを捨てたことのない国のように、彼らはわたしの正しいさばきをわたしに求め、神に近くことを望んでいる。3 「なぜ、私たちが断食したのに、あなたはご覧にならなかつたのですか。私たちが身を戒めたのに、どうしてそれを認めてくださらないのですか。」見よ。あなたがたは断食の日に自分の好むことをし、あなたがたの労働者をみな、圧迫する。4 見よ。あなたがたが断食をするのは、争いとけんかをするためであり、不法にこぶしを打ちつけるためだ。あなたがたは今、断食をしているが、あなたがたの声はいと高き所に届かない。5 わたしの好む断食、人が身を戒める日は、このようなものだろうか。葦のように頭を垂れ、荒布と灰を敷き広げることだけだろうか。これを、あなたがたは断食と呼び、主に喜ばれる日と呼ぶのか。」

2) 契約の祈り(ローマ7:19~21；エペ2:1~3；エペ1:10；2:14)

3) 中心からの祈り

(1)私の願いと御言葉が一つになる唯一の道イエス・キリスト(コリ14:15)

「ではどうすればよいのでしょうか。私は靈において祈り、また知性においても祈りましょう。靈において賛美し、また知性においても賛美しましょう。」

(2)御言葉と生活が一つになる唯一の道イエス・キリスト(ローマ13:1、2)

「そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの靈的な礼拝です。この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえるために、心の一新によって自分を変えなさい。」